

視聴覚教育

NO 186

発行日
4.10.1発行
岡崎市AVL
編集
広報委員会

|| 先進校の研究報告 ||

たくましい体と豊かな心を育てる

— 創造力・実践力を高める視聴覚メディアの活用 —

井田 小学校

本校は、校訓「なにごととも力いっぱいやりぬこう」を柱に、知・徳・体の調和のとれた人間形成を目指している。知・徳・体の調和のとれた「たくましい体と豊かな心」をはぐくむため、「理科」「体育」「総合学習」の三部会を中心にして研究を推し進めている。

子供たちが目を輝かせ、生き生きと活動するためには、「感動のある授業」「創造性豊かな授業」を展開し、学ぶ楽しさ、分かる楽しさ、共に伸びる楽しさを味わわせることが重要であると考ええる。

しかし、子供たち一人一人の既有知識や、興味・関心の違い、生活経験の差異によって受けとめ方や、学習の深まり方に大きな個人差が生じる。この個人差も、個々がそれぞれの思いを持って学習課題を持つことができる場合は問題ないが、学習対象のよさを見過ぎしたり、追求の仕方が思い浮かばなかったり、学習の受け皿として

のイメージを持つことができないう子供に対しては、手だてを講じなければならぬ。そこで、視聴覚メディアを活用し、一人一人の子供の学習を深めていきたいと考え次のように研究の重点を設定し、実践している。

研究の重点目標

- ① 視聴覚メディアの特性を吟味して単元の流れの中に位置付け、活動を促す単元構成の工夫をする
〔主体的な学習展開〕
- ② 子供の活動の場を大切に、子供自身の努力で目的を達成する喜びを味わわせる。
〔自己実現の喜び〕
- ③ 感性を高める視聴覚メディアを選択し、その活用法を工夫する
〔感性と理性に訴える授業〕

理科部では、自作ビデオや顕微鏡カメラを、体育部ではビデオカメラやスチルビデオカメラ、ビデオフロッピーを中心に活用し、子供の主体的な追究を支えるようにしている。

また、本校では、自立への基礎を養うという生活科の精神を三年生以上の学年にも取り入れ、総合学習として展開させている。総合学習は、「にんげん家族」「いのち輝け地球」など学校放送番組の視聴を出発点に、自分と身近な社会や自然、人とのかわりに目を向けさせながら、自分も自然の一部であり、社会の一員であることを自覚させ、自分の在り方や生き方を考えさせていくようにしている。



第42次岡崎市教育研究集会 視聴覚部会より

去る九月十八日(金)、第四十二次岡崎市教育研究集会が開催された。視聴覚部会は、細川小学校において行われた。助言者に、愛知県教育センターの竹橋義明先生をお迎えし、参加者四十二名により、熱心に報告・討論が行われた。

発表された実践レポート十八の内容を分類すると、次のようになる。

- 学校放送と自作番組の活用 (六レポート)
- 様々な視聴覚機器の利用 (四レポート)
- 校内放送の充実 (一レポート)
- 視聴覚メディアの効果的な活用 (三レポート)
- パソコンの活用 (四レポート)

助言者の竹橋先生より、一つ一つの報告に対して、丁寧なご指導、ご助言をいただいた。また、岡崎の視聴覚教育の先進性と充実ぶりをほめていただいた上で、次のようなご提言をいただいた。

子どもたちと先生が、共にメディアを駆使して、共に作り出す、心にせまる視聴覚教育を進めたい。

今後いつそその研鑽を誓い、会を閉じた。

尚、県教育研究集会「現代文化と教育(視聴覚)」正会員には、細川小学校の鈴木淳二先生、矢作中学校の伊藤研治先生が選出された。



中学校放送コンテスト県大会の結果(七月四日)

- 〈朗読部門〉
- 入選 原田 祐子(矢作中学校)
- 〈ラジオ番組部門〉
- 優良 「ああ悲しき受験生」(常磐中学校)
- 入選 「学級対抗新聞収集」(矢作中学校)
- 〈テレビ番組部門〉
- 優良 「WE LOVE 青木川」(常磐中学校)
- 優良 「挑戦!手作りうどん」(矢作中学校)
- 小学校放送コンテスト県大会の結果(八月二十八日)
- 〈アナウンス部門〉
- 優良 太田 浩代(井田小学校)

ライブラリーだより

☆ビデオ教材の紹介

『国会百年』 対象 中学校・一般 68分
国会開設から、大正デモクラシー、世界恐慌、第二次大戦を経て現在に至るまでの、国の最高機関としての「国会」を紹介した作品。

☆新規貸出機材の紹介

- スライド映写機(100V-300W)
(スライドコーダー使用可)
- ワイヤレスアンプ(300MHz)
(タイピン用2本、スピーチ用2本、カセット内蔵)
- スタンド式スクリーン
(1.8m×2.4m、2.0m×2.0m)

